

プログラム

- 13時20分 受付開始
- 13時40分 開催の辞
名古屋大学医学部手の外科学教授 平田仁
- 13時50分-14時50分 特別講演 1・2
(座長) 池田修一 信州大学第3内科教授
- 13時50分~14時20分 講演1
「新たなる慢性疼痛の研究、そして治療」
Dr. Bruce Parsons
Senior Director, Medical Affairs Primary Care Business Unit
Pfizer Inc.
- 14時20分-14時50分 講演2
「痛み治療における貼付剤の役割と製剤的工夫」
寺原孝明
久光製薬株式会社 研究開発本部製剤研究所所長
- 14時50分-15時00分 休憩
- 15時00分-16時00分 特別講演3・4
(座長) 加藤博之 信州大学整形外科教授
- 15時00分-15時30分 講演3
「心と痛みの関係」
西原真理
愛知医科大学学際的痛みセンター特任准教授
- 15時30分-16時00分 講演4
「スポーツ選手の痛み-アスレチックトレーナーの取り組み」
大隈重信
株式会社BIGBEAR 代表取締役 アスレチックトレーナー
- 16時00分-16時10分 休憩
- 16時10分-16時40分 総合討論
(座長) 牛田享宏 愛知医科大学学際的痛みセンター教授
平田仁 名古屋大学手の外科学教授

International symposium on body aches.
- How can we solve the problem of pain?-

- Program -

13:40	Opening address
13:50 - 14:20	“New Research and Treatments for Chronic Pain ” Bruce Parsons (Pfizer Inc.)
14:20-14:50	“Pharmaceutical innovations and role of transdermal patch on pain treatment ” Takaaki Terahara (Hisamitsu Pharmaceutical Co.,Ltd)
14:50–15:00	Break Time
15:00-15:30	“The relationship between mind and pain” Makoto Nishihara (Multidisciplinary Pain Center, Aichi Medical University)
15:30-16:00	“The pain in athletes – The efforts of athletic trainer –” Shigenobu Okuma (BIGBEAR Co.,Ltd)
16:00–16:10	Break Time
16:10–16:40	Discussion



前骨間神経麻痺・後骨間神経麻痺に対する 全国整形外科多施設診療グループ

病態、予後、治療法について

最新情報

参加施設のご案内

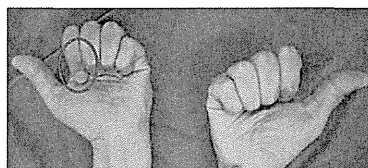
診療・研究文献

前骨間神経麻痺、後骨間神経麻痺の病態、予後、治療法について

前骨間神経麻痺の原因は不明です。腕や肘の痛みを感じた後に、親指と人差し指の第一関節を曲げることが困難なことに気づきます。手指の感覚の障害はありません。前骨間神経は肘付近で正中神経から分岐して、主に親指と人差し指の第一関節を曲げる筋肉を支配しているため、この神経が麻痺すると親指と人差し指を曲げることが困難になります。



母指の第一 (IP) 関節屈曲不能

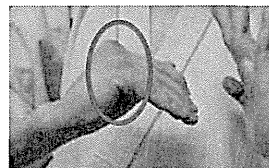


示指の第一 (DIP) 関節屈曲不能

後骨間神経麻痺の原因も不明です。やはり腕や肘の痛みを感じた後に、親指から小指の全部あるいは何本かを伸ばすことが困難になります。手首の運動障害や手指の感覚障害はありません。後骨間神経は肘周囲で橈骨神経から分岐して、指を伸ばす神経を支配しているため、この神経が麻痺すると親指から小指の全部あるいは何本かを伸ばすことが困難になります。



指のつけ根 (MP) 関節伸展不能

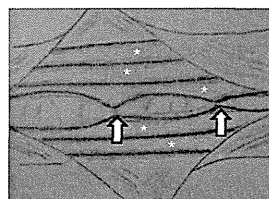


指のつけ根 (MP) 関節伸展不能

いずれの神経麻痺においても共通しているのは、発症前後に腕に激痛を生じることが多いこと、感覚異常が少ないことが多いこと、発症後2~3か月で自然回復が始まることが多い点です。

一方、自然回復が思わしくない患者さまの神経を手術で展開すると、神経の中の束(たば)に“くびれ”がみられることが多く(右図)、その“くびれ”を剥離すると回復がみられる場合があることも知られています。

ただ大変残念なことに、何割かの患者さまは回復しないことも事実です。これまでに世界中の多くの末梢神経専門家がその原因や治療方法を確立するために努力を重ねて参りましたが、いまだに明らかにできておりません。その最大の原因は、それぞれの施設における患者さまの数が少ないため、各種の治療法の正確な比較が困難なことにあります。



手術中に上腕から肘にかけての神経を顕微鏡で観察すると、1本の神経の中に正常な神経束(*)とくびれのある神経束(矢印)がみられます

そこで平成24年2月から、末梢神経を外科的に治療する国内の整形外科医(手外科医)が前骨間神経麻痺、後骨間神経麻痺の患者さまの病態と治療経過を登録し、両神経麻痺の自然経過、臨床像、治療効果の解明にあたることになりました。これらの点が明らかになれば、世界中にいらっしゃる患者さまにとって大きな福音となります。

この取り組みは厚生労働省科学研究費補助金慢性の痛み対策研究事業「難治性神経因性疼痛の基礎疾患の解明と診断・治療精度を向上させるための研究」(信州大学脳神経内科:池田修一班長)の支援を受けて2012年2月より開始したところです。

前骨間神経麻痺・後骨間神経麻痺に対する全国整形外科多施設診療グループ

【事務局】

信州大学医学部附属病院整形外科
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

川崎市立川崎病院整形外科
〒210-0013 神奈川県川崎市川崎区新川通12-1

[V] 班構成員名簿

厚生労働科学研究費補助金 慢性の痛み対策研究事業

「難治性神経因性疼痛の基礎疾患の解明と診断・治療精度を向上させるための研究」班
平成24年度名簿

区 分	氏 名	所 属 等	職 名
研究代表者	池田 修一	信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科	教 授
研究分担者	岩崎 倫政	北海道大学医学部整形外科 上肢班	教 授
	加藤 博之	信州大学医学部運動機能学講座 (整形外科)	教 授
	川眞田 樹人	信州大学医学部麻酔蘇生学講座	教 授
	平田 仁	名古屋大学大学院医学系研究科 機能構築医学専攻運動・形態外科学講座 手の外科学教室	教 授
	神田 隆	山口大学大学院医学系研究科 神経内科学講座	教 授
	長檜 巧	愛媛大学大学院医学研究科 麻酔・蘇生学教室	教 授
	高嶋 博	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 神経病学講座 神経内科・老年病学	教 授
事 務 局	関島 良樹 倉科 美鈴	信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 T E L 0263-37-2673 F A X 0263-37-3427 e-mail itamihan@shinshu-u. ac. jp	

